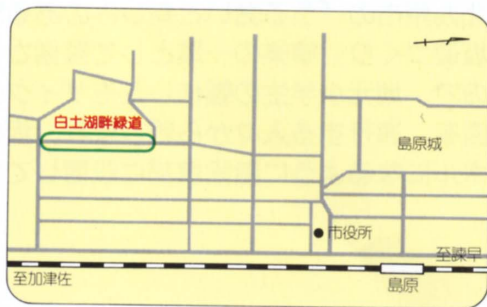


地殻変動により生じた日本一小さな陥没湖である。「水緑都市整備計画」に基づき市民から風土や文化遺産についての意識や評価、整備の方向性についてアンケートを実施し整備した。人間と野鳥の語らいの場になっている。



「島原の乱」で知られる城下町島原は、随所に清冽な湧水群があることから、「水の都」としても有名である。この白土湖は湧水群の中でも代表的

なもので、一七九二年（寛政四年）眉山の大崩壊（島原大変）によって一夜にしてできた、周囲約五〇〇メートル、面積約一ヘクタール、湧水量約四万五

〇〇〇m³/日の日本で一番小さな陥没湖である。野鳥が多く飛来することでも知られている。

市では「湧水と緑とやすらぎの城下町」をテーマに掲げ、総合的な街づくりを推進してきたが、計画策定にあたり、市民に対して市内の自然的風土と歴史的文化遺産についての意識や期待される街づくりの方向性をアンケートしたところ、白土湖周辺が市のシンボルの地域として最も整備が望まれている場所のひとつであることが明らかになった。

これを受けて、島原産の自然石などを用いて緑道が整備され、現在では島原大変の歴史を秘めた、やすらぎとふれあいの場として、広く市民に愛されている。

データボード②

- ① 長崎県島原市白土町
- ② 島原市役所 ☎0957-63-1111
- ③ 延長310m、幅員2.0~5.0m
- ④ 島原産自然石、PC杭、鉄筋コンクリート、擬石

